

「三井」って知っていますか？

三井っていうと、いろんな会社に「三井〇〇」という名前がみられます。江戸時代の中ごろ、松坂出身の三井高利（みついたかとし）という人が、松坂付近の特産物である木綿をもとに江戸（現在の東京）に店を出し大きな財産を築きました。その後、両替商などさまざま分野にも進出し、現在でも日本の経済に大きな影響をもつ会社グループです。三井高利は井原西鶴の『日本永代蔵』のモデルとされ、また学校の教科書にも江戸時代の豪商として紹介されています。

三井高利は、独特の商才で日本中に知られる大商人になりました。その代表的な商法が店頭販売である「店先売り（たなさきうり）」と、現金売りの「現銀（金）掛値なし」で、もうひとつは反物（たんもの）の「切り売り」です。反物は当時、一反単位の販売が常識で、どの店も一反から売っていたものを、客の需要に応じて切り売りし、江戸の町民にうけいられました。

このほか、「即座に仕立てて渡す」というイージーオーダーの「仕立て売り」も好評を呼び、越後屋はやがて江戸の町人から「芝居千両、魚河岸千両、越後屋千両」と呼ばれ、1日千両の売り上げを見るほどに繁盛したそうです。



三井高利像



日本橋駿河町の三井越後屋の図（部分） 清水町 西方寺所蔵



上記の絵に描かれていた看板 三越所蔵

松坂で生まれ育った三井高利は、江戸や京都に呉服店、両替店など多くの店を構えた後は京都に居を移しましたが、長女みねの家系を松坂家（近世は松坂南家）、養子高古を永坂町家（近世は松坂北家）とし、2家を松坂に居住させました。そして、松坂では商品の仕入れなどの業務を受け持つとともに、紀州藩から御用勤めや松坂大年寄役という町役人を命ぜられ、その後も代々大年寄役を勤めていました。

三井だけでない松坂の豪商

松坂出身の商人は、松坂が御三家の紀州藩領であること、特に8代将軍徳川吉宗以降は将軍家につながる紀州藩領の商人ということで、幕府や他の大名からも一目おかれた立場で、有利に江戸進出を図ったと考えられます。

松坂地域をふるさととする商人（松坂商人あるいは伊勢商人ともいわれる）の多くは、この地域の特産物であった木綿（もめん）、お茶などを扱った商売をしていました。江戸時代前期から江戸日本橋に出店し、やがて松坂の江戸店持ちは50軒ほどになり、松坂周辺出身の商人の多さは江戸中に知られるようになりました。この江戸店は現在の中央区日本橋を中心に展開しており、今も三井越後屋の三越日本橋本店（本町出身）・小津産業（同）、マルサン長谷川（魚町出身）、国分（射和町出身）などの本店・本社があります。また、ちくま味噌を創業した中万町出身の竹口も最初日本橋に出店し、後に江東区佐賀に移転しました。

*「松坂」の表記は、明治22年の町制施行にともない「松阪」に統一されました。

『三井高利展』を開催します。

【松阪会場】 松阪市文化財センター第1ギャラリー 松阪市外五曲町1番地
平成24年12月4日（火）～12月12日（水） 午前9時～午後5時
*12月10日（月）は休館日 最終日は午前中のみ
主催：松阪市・松阪市教育委員会

【東京会場】 三越日本橋本店 本館7階東館ギャラリー 東京都中央区日本橋室町1-4-1
平成24年10月17日（水）～10月22日（月） 午前10時～午後7時
主催：松阪市・株式会社 三越伊勢丹

QRコード読み取り
(文化財センター情報)